

令和8年度

**琵琶湖保全再生施策に関する計画
(琵琶湖保全再生計画)(第3期)
関連事業予算**

琵琶湖保全再生施策に関する計画(第3期) 関連事業予算案

【予算額 494.7億円】

※前年度比 +65.5億円(約115%)

■ 主な増要因

- ・ 3 (1) 流域下水道事業(汚泥燃料化施設の建設、受変電設備の更新、物価高騰対応等) + 52.6億円
- ・ 3 (5) 県営経営体育成基盤整備事業(大区画化や用排水路の整備等) + 4.5億円

■ 主な減要因

- ・ 6 木育拠点施設(しがモック)整備事業(整備が一定終了) ▲ 1.6億円

上記のほか、令和7年度補正予算あり(国補正予算対応による令和8年度当初予算前倒し分) +約44.3億円
(・県営経営体育成基盤整備事業+14.4億円 ・県営かんがい排水事業+12.7億円 ・砂防事業+9.7億円)

(単位:千円)

計画の項目	予算額等	令和7年度当初予算額 A			令和8年度当初予算額 B			増 減 B - A		
		予算額	財 源 内 訳		予算額	財 源 内 訳		予算額	財 源 内 訳	
			国費	一般財源等		国費	一般財源等		国費	一般財源等
3 琵琶湖の保全および再生のための事項		41,423,094	17,286,650	24,136,444	47,984,349	20,464,493	27,519,856	6,561,255	3,177,843	3,383,412
(1)水質の汚濁の防止および改善に関する事項		24,473,230	9,315,046	15,158,184	29,684,348	11,818,000	17,866,348	5,211,118	2,502,954	2,708,164
(2)水源の涵養に関する事項		10,700,454	5,543,820	5,156,634	10,728,004	5,518,031	5,209,973	27,550	▲ 25,789	53,339
(3)生態系の保全および再生に関する事項		968,198	186,552	781,646	1,322,963	252,115	1,070,848	354,765	65,563	90,251
(4)景観の整備および保全に関する事項		198,951	0	198,951	504,640	148,991	355,649	305,689	148,991	355,649
(5)農林水産業、観光、交通その他の産業の振興に関する事項		5,082,261	2,241,232	2,841,029	5,744,394	2,727,356	3,017,038	662,133	486,124	176,009
4 琵琶湖保全再生施策の実施に資する調査研究に関する事項		420,523	56,027	364,496	412,017	56,569	355,448	▲ 8,506	542	▲ 9,048
5 琵琶湖保全再生施策に取り組む主体その他琵琶湖保全再生施策の推進体制の整備に関する事項		98,565	5,225	93,340	84,572	2,500	82,072	▲ 13,993	▲ 2,725	▲ 11,268
6 琵琶湖保全再生施策の実施に資する体験学習を通じた教育その他の教育の充実に関する事項		980,790	16,890	963,900	992,524	53,426	939,098	11,734	36,536	▲ 24,802
合 計		42,922,972	17,364,792	25,558,180	49,473,462	20,576,988	28,896,474	6,550,490	3,212,196	3,338,294

重点ポイントごとの主な事業

()は令和7年度当初予算額

1 気候変動による影響への対応 106,970千円 (78,088千円)

アユ等水産資源維持保全事業費	45,034千円 (44,272千円)	産卵用人工河川にアユ親魚を放流し、仔魚を効果的に琵琶湖へ流下させることで、アユ資源の安定維持を図る。
アユ産卵用人工河川の気候変動適応化技術開発事業 ⑨	19,990千円 (-)	人工河川から流下したアユ仔魚の動態や生育環境を調査することで、気候変動下での人工河川の現状と課題を把握し、効果的な運用方法を明らかにする。
気候変動が琵琶湖の生態系と物質循環にもたらす影響に関する研究 ⑨	21,646千円 (-)	良好な水質と豊かな生態系の両立に向け、気候変動が琵琶湖の生態系や物質循環に及ぼす影響を明らかにする研究を実施する。水産資源に関しては、気候変動の影響によるプランクトンの季節的増減の変化と、アユ仔魚の琵琶湖への流下時期との関係等について検証を行う。
災害に強い森林づくり事業	10,000千円 (10,000千円)	風倒木等被害対策としての予防伐採の実施や、里山における獣害防止機能の強化により、災害に強い森林づくりを目指す市町の取組を支援する。
「オーガニックといえば滋賀」ブランド化推進プロジェクト	10,300千円 (23,816千円)	オーガニック農業の拡大の柱である「きらみずき」の取組拡大と情報発信の強化により「オーガニックといえば滋賀」という産地ブランドの確立を目指す。

2 良好な水質と豊かな生態系の両立 55,609千円 (45,673千円)

琵琶湖の漁場生産力の評価および回復に関する技術開発研究	4,327千円 (6,915千円)	アユを含む水産資源において成長不良等による資源の不安定化が顕在化しているため、琵琶湖の魚を育む力(=漁場生産力)を評価するとともにその回復手法の検討を行う。
漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業	36,682千円 (24,158千円)	漁業者や地域住民を中心とした活動組織が行う漁場環境改善(湖底や河床の耕耘、清掃活動、外来魚駆除等)を支援することで、漁場生産力の維持・回復を図る。
西の湖における水質改善実証モデル事業	14,600千円 (14,600千円)	水質悪化やアオコの発生が頻繁に見られる西の湖において、水質悪化の原因究明を進め、アオコの発生抑制に向けて水質および底質の改善に係る実証実験等を実施する。

重点ポイントごとの主な事業

3 ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現

692,237千円
(675,894千円)

有害外来魚ゼロ作戦事業	22,467千円 (22,467千円)	オオクチバスやブルーギルのさらなる抑制のため、またチャネルキャットフィッシュの急激な増加を防ぐため、効率的な駆除事業を展開する。
侵略的外来水生植物戦略的防除推進事業	189,544千円 (170,302千円)	琵琶湖の生態系への影響が懸念されているオオバナミズキンバイやナガエツルノゲイトウ等の侵略的外来水生植物について、戦略的な防除を行うとともに、希少種の生育環境等の保全事業に取り組む市町を支援する。
ニホンジカ対策事業	140,149千円 (143,971千円)	市町等が実施するニホンジカの捕獲事業に助成するとともに、捕獲条件が厳しい奥山等でニホンジカの調査や捕獲を行う。
カワウ対策事業	15,043千円 (14,276千円)	市町等が実施するカワウの捕獲事業等に助成するとともに、竹生島等の大規模営巣地でカワウの捕獲を行う。
第二種特定鳥獣対策推進事業	116,014千円 (110,167千円)	ニホンジカ、イノシシおよびニホンザルについて市町等が実施する捕獲事業に助成するとともに、生息動向のモニタリング調査等を行う。
水草刈取事業・水草除去事業	203,828千円 (214,711千円)	水草の大量繁茂が生活環境や生態系などに深刻な影響を与えるため、水草の表層刈取りや根こそぎ除去を実施する。また、刈り取った水草は農地で有効利用し、資源循環を図る。
生物多様性しが戦略推進事業 ㊦	5,192千円 (－)	「生物多様性しが戦略2024」に基づき、企業等による保全地域の拡大等に向け、「しがネイチャーポジティブネットワーク」を活用し、多様な主体による連携を進める。

4 琵琶湖を中心とする自然環境と調和のとれた産業の振興、琵琶湖周辺環境の魅力向上

568,549千円
(558,848千円)

THEシガパーク魅力発信推進事業	17,847千円 (12,000千円)	THEシガパークにおけるSNS等を通じた情報発信やイベント開催等を行うことで、魅力の向上を図る。 ※県全体のTHE シガパーク関連予算 約11.4億円
環境こだわり農業支援事業	441,823千円 (474,520千円)	農業の持続的な発展と農業の有する多面的機能の発揮を図るために、地球温暖化防止や生物多様性保全等に効果の高い農業生産活動を支援する。

重点ポイントごとの主な事業

4 【続き】琵琶湖を中心とする自然環境と調和のとれた産業の振興、琵琶湖周辺環境の魅力向上

しがスマート林業実践事業	16,043千円 (18,225千円)	高性能林業機械やＩＣＴなど最新技術を活用した、効率的で収益性の高いスマート林業を実践できる人材を育成することにより、県内全域で主伐・再造林による循環型林業を推進する。
ビワイチ観光推進事業	51,192千円 (54,103千円)	ビワイチの魅力を国内外に発信するとともに、子どものビワイチ体験の促進、レンタサイクルの利便性向上によりビワイチの体験者層の拡大を図り、本県の観光振興および活力ある地域づくりを進める。
自然資本の地域活動やビジネスへの活用事業 ⑧	41,644千円 (－)	国立環境研究所琵琶湖分室と連携し、琵琶湖の生物分布や水環境の可視化に向けた連携研究を実施する。また、これらの研究成果を多様なステークホルダーの協働による地域での保全事業等に活用するとともに、ビジネス化に向けたモデル構築を進めることで、自然と経済が両立する持続可能な地域発展とネイチャーポジティブの同時達成を推進する。

5 好機を生かした取組推進 176,726千円 (47,573千円)

「世界農業遺産」プロジェクト推進事業	21,320千円 (24,530千円)	世界農業遺産「琵琶湖システム」を最大限活用し、「学ぶ」「食す」「訪れる」を事業の柱とし、琵琶湖システムを知り、体感する機会を提供することにより、県産農水産物の高付加価値化や観光資源としての活用等につなげ、滋賀の農林水産業を健全な姿で次世代に引き継ぐ。
「世界湖沼の日」制定を契機とした情報発信・連携推進事業	5,052千円 (23,043千円)	「世界湖沼の日」制定を契機とし、持続可能な湖沼管理の推進に向け、海外関係者等との交流イベントやワークショップの開催、第11回世界水フォーラムへの参画等を通じ、琵琶湖の保全再生の取組やMLGs等を国内外に発信するとともに、自治体・企業・団体等の連携を推進する。
滋賀デスティネーションキャンペーン推進事業 ⑧	150,354千円 (－)	令和9年秋(10月～12月)にＪＲグループ6社と本県が協力して実施するデスティネーションキャンペーンの準備を進めるため、滋賀県シガリズム・デスティネーションキャンペーン推進協議会に対して負担金の拠出等を行う。